



編集・発行 日蓮宗 能勢妙見山 広報部 〒563-0132 大阪府豊能郡能勢町野間中 電話 072-739-0329 FAX 072-739-2883

### 心に潜む毒

倉橋 観隆

お釈迦様の信者には様々な人がいます。その中の一人に維摩（ゆいま）という人がいました。彼はお釈迦様の教えの究極を悟っていました。その維摩が病氣になった時、お釈迦様は弟子たちに彼の見舞に行つて欲しいと言われたのです。

まずは智慧第一といわれたシャリホツでした。すると彼は「とんでもございませぬ。いくらお師匠様のご指示でもその役目だけはご勘弁を」と断りました。その理由を尋ねると、

「シャリホツさん、瞑想は林の中だけでするものではないな。日々の生活を保たなければ本当の瞑想とは言えませんよ」と。まさに瞑想の極意を射貫かれ愕然とした事がありました。「という訳で、怖くてお見舞にはいきませぬ」次に神通力第一といわれたモクレンに白羽の矢が立ちました。彼も断ります。理由は苦行によつて体得した神通力を使つて体験した不思議な話を皆に聞かせていたら、維摩がやつて来て言いました。「あなたのお説教は偏っています。不思議な体験は大切ですが、それを通して事柄の本質まで見抜いたお

話をしなければ本当の説法にはなりません」彼は自信をなくしてしまいました。

お釈迦様は十大弟子総てに声をかけます。が、皆苦行によつて得た一番得意とする力を維摩にこてんぱんに否定されていたのです。実はお釈迦様は弟子たちが見舞を拒むことを最初から見越して、あえて命じられたのでした。

維摩を通して気付かせた

かったことは、いくら修行をして力をつけても、それが却つておごりの原因になる危険があるとの戒めだったのでした。

これは『維摩経』に説かれるお話ですが法華経はこの教えのエッセンスを「増上慢」という一言で表現しています。すなわち私たちの心の最奥に潜む毒は「増上慢」であることに警鐘を鳴らしているのです。

### 《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

#### 能く一念の

#### 信解を

#### 生ぜば

#### 所得の功德

#### 限量あること

#### なけん

『分別功德品第十七』

いのちはこの世で終わりと

多くの人は思つてる

だけど仏の教えには

無限のいのちが説かれてる

それを信じる信ぜぬは

所詮あなたの勝手だが

たとえあなたがいなくても

無限の宇宙は生きている

### 【11月の主な行事】

☆七五三詣祈禱 1日〜30日

◎お子様の成長を祈つて七五三詣りご祈禱を11月中執り行つております。

※祈禱札と記念品を授与

御祈禱料 三五〇〇円

☆宗祖日蓮聖人御会式法要

10日(土)〜11日(日)

※法要に参詣された方にはお会式桜とおはぎの供養があります

★写経会 11日(日)11時

★月例祈願法要 15日(土)13時

★星嶺演奏会 18日(日)11時

トランプットの生演奏

★星嶺茶論 18日(日)13時

★鷗様月例祭 22日(木)15時

### 【12月の行事予定】

★写経会 9日(日)11時

初心者の方もどうぞ！

★月例祈願法要 15日(土)13時

妙見さまの御縁日祈願会

★鷗様月例祭 22日(土)15時

火伏守札を授与

\*12月から2月までの星嶺茶論

はお休みします

《交通のご案内》

◆ケーブル&リフト毎日運行中

※12月3日から来年3月15日

までお正月を除き運休。

◎新年歳始祈禱のお申込みの受付を開始致しました。

### 泥臭さの中にこそ

栗原啓文

朝晩は肌寒く感じることも多くなってきた。異常気象といわれる程の猛暑だった八月の暑さは、一体どこへ行ってしまったのだろうか。それにしても今年の夏は、気温もそうだが、色々な意味で本当に暑かった。心も身体も。そう。夏の甲子園第一〇〇回記念大会である。何といっても今大会の主役は秋田県代表、金足農業高校の選手達だろう。全国ではあまり名の知られていない、部員全員が地元出身の公立高校が、強豪私立を次々と手玉に取っていき姿は圧巻の一言。決勝で大阪桐蔭高校に敗れはしたものの、全国制覇という夢に向けて、泥だらけになりながらプレーする姿に日本中が熱狂した。

今年の夏の甲子園は、四〇〇億円を超える過去最高

の経済効果を生み出した。何故これほど多くの人が甲子園球場に足を運ぶのか。これは一高校野球ファンとしての私の心情だが、部員全員が心一つにして全力でプレーする姿を目に焼き付け、そこで得た活力を日常に還元したいと思うからではないだろうか。まるでその姿を通して、自身の純粹な心を見つめなおすかのように。

日蓮聖人は、御遺文『法華初心成仏抄』で「籠の中の鳥なけば、空とぶ鳥の呼ばれて集まるが如し。空とぶ鳥の集まれば籠の中の鳥も出でんとするが如し。口に妙法を呼び奉れば我身の仏性もよばれて必ず頭れ給ふ」とお示しになられた。仏性を現代的に解釈すれば純粹で穢れのない人間性と言ひ換えることもできる。つまり、お互いがお題目をお唱えすることで自身の中にある純粹な人間性を呼び

この冬、四度目の加行所に入行する。加行所は一般には大荒行堂として知られるが、日蓮聖人から帝都弘通を委嘱された日像上人が寒吉百日の間、由比ヶ浜で行を積んだのが始まりという。現在の荒行も、日に七度の水行で身を清め朝夕二度の白粥のみで

起こすことができるのである。籠の中の鳥が、空を飛ぶ鳥の鳴き声に呼応して籠から出ようとするように。今回の金足農業高校の大躍進を見て、たくさんの人々が忘れかけていた自分の純粹な人間性を見つめ直すことができたのではないだろうか。

私もこの甲子園で与えていただいた活力を糧に、一層御題目の流布に努めていきたい。

### ☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

命を繋ぎながら、ただひたすらにお経を読むという厳しい修行だ。四度目といえど緊張感はずいぶん増している。どこか、むしろ増しているように感じる。法華経を弘め幸せな世界を作る一助とすべく、諸天善神の加護を請い百日間の荒行に精進したい。

U.K

**俳壇** (みのり)

山門に打出す太鼓会式寺えしき

霧ごめの山里静かに明け初むる

手作りの頭の舞ふや亥の子獅子

この列のどこまで続く紅葉山

楽しみし熟柿鳥に攫さらはれし

### 法華経茶話

#### 三車火宅喻(二)

この三車火宅の喻は舍利弗に請われてお釈迦様がお説きになった喩え話です。資産家はお釈迦様、火事になった邸宅は欲が渦巻く現実世界、遊びに夢中になっている子供たちは我々凡夫、三つの玩具の車は羊と鹿が自己の覚りのみを求める小乗の教え、牛が菩薩の在り方を求める大乘の教え、本物の牛の車が法華経のことを示しています。

この話を現代的に読み解けば、玩具の車は若者が好みそうなオートバイでしょう。無論これは単車で、目的地へ辿り着けるのは自分だけです。しかし、自分だけ成仏という目的地へ辿り着けばいいという利己主義で私達を満足させることは、お釈迦様の本意ではありません。だからこそ、大勢の人が乗って目的地に達することが出来る大型バス、法華経を与えたのです。